



留学生と語り合う

No. 83

RKK ニュース (2021年春号)

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK) Relationship and Kindness are the Kings of Peace

RKKの活動趣旨とこれからの活動

The Aims and Future of RKK's Activities

NPO 法人 RKK 理事長 深水 智明

Tomoaki Fukami, Chairman of RKK (NPO)



最近のスタッフミーティング報告メモ集から伺えたRKKの活動では、オンラインの活用による留学生支援・交流に関する報告が多く見られました。ある地区では今後の活動へのオンラインの有用性、活用の進め方等も議論もされています。また、いわゆる「支援」のみならず、「交流」状況の報告も増え、活動の幅が広がったように感じられます。一方、コロナ禍による支援の一時休止、留学生の不在や減少等の寂しい報告も目につきます。

さて、RKKの活動は「人」が主役であります。昔の教え「倉の財は朽ちることあり、身の内の財は朽ちることなし」のように、交流によって蓄積された宝は末永く留学生、会員の心に生き続けるでしょう。コロナ禍においてもこれまで積み重ねた宝を損なうことなく、新しい宝を生み出す活動を続けたいものです。

そのためにはコロナ禍に対応しつつ、その先の活動を如何に進めるか。まず当面は、支援・交流を絶やさない対応策はオンラインを初め、メール、SNS等の活用を広めることでしょう。オンラインを利用してみると、対面とは違和感もありますが、新しい気づきや価値を見出すこともあります。かつ、対面、オンライン、メール等をケースバイケースで使い分け、支援・交流方法が多様化されるでしょう。そして、今後の課題は、オンライン等の経験を積み重ねて活用方法を研究し、コロナ禍の桎梏から解放された暁には新しい支援・交流活動が生まれるよう努力することではないでしょうか。それによって、留学生の前途を期待した交誼の喜びを増すことができると確信します。

According to the reports of RKK's activities from staff meetings recently, many online supports and exchange opportunities for international students have been offered. There were also discussions about the effectiveness and utilization of online exchanges at an area meeting. Although our activities seem to be expanded by increasing not only supports but exchanges, unfortunately some reports say our supports have suspended and the number of international students has decreased due to the COVID-19.

There is an old saying that the treasures such as knowledge and thoughts accumulated by "people" will remain forever, while "material" might fall into decay with the times. What is important for us is to do what we can do now and accumulate new treasures between international students and RKK member for post-COVID.

In such circumstances, our immediate task will be to expand utilization of online tools including email and SNS to continue our supports and exchanges. While you might feel uncomfortable with online communications compared to face-to-face ones, those will lead to new findings and values. Thus, as the methods of supports and exchanges become diversified by using different tools on a case-by-case basis, we need to study how to use those methods and create new activities after escaping from the fetters of the coronavirus pandemic. By doing so, I believe we can deepen the joy of interacting with international students while hoping their future success. (Translated by Azusa Sugita)

※上記英訳は、左記の要約文です。

※This is a short summary of the original text.



ホームページをお訪ねください

ホームページは随時更新しており、新しく留学生支援情報を追加しました。併せて「会員のひろば」を通じて、留学生に対する支援、交流体験のほか、コンサート、映画など趣味の情報交換にもご利用下さい。掲載希望の会員はメッセージをRKK 広報委員会スタッフにお知らせください。

投稿先アドレス：sugita1526@ybb.ne.jp
掲載ホームページ：<http://rkk.world.coocan.jp/> または **NPORKK** で検索
ホームページへのアクセスに、右コードをスキャンして下さい。
広報委員会では会員の皆様からの寄稿をお待ちしております。



広報委員会



留学生からのたより

答え探しの旅

けいおうぎじゅくだいがく しょう う
慶応義塾大学 章 宇 (中国)



とを実感しました。

振り返れば、留学前、これから4年間の留学に対して、たくさんの不安を抱えていました。親元を離れ、中国を離れ、慣れない土地で一人で生活、勉強ができるのでしょうか。不安を語ればきりはありません。ですが、それでも留学を決心したのは、高校生の頃から、大学生になったら留学をしてみ

日本に留学してから、すでに三年経ちました。初めて日本に来た時成田空港で道に迷って、親切に案内してくれたスタッフの姿が今も心の奥のどこかに残っています。そして、時間がたつのは早いというこ

たいという願望がありましたので、絶対日本に留学したいという強い気持ちでした。

実際に日本に留学してみると、おいしい料理を食べて、日本のどこかに旅行に行くと、生活がとても充実していました。しかし、いつも考えていたのは「留学する意味は何なのか」という問題です。留学する前にはつきりさせないといけないこういった問題ですが、今でもその答えを探しています。答えを探している途中で、たくさんの方々と出会って、全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、3年前と比べて、うまく成長してきているでしょうか。

時の流れに身をまかせて、異国旅人としての答え探しの旅はまだまだ続くでしょう。(原文のまま)



家族といっしょに日本に留学

よこはまこくりつたいがくたいがくいん
横浜国立大学大学院
グエン ダック チュン (ベトナム)



よこはまこくりつたいがくと innovation がくふ
横浜国立大学都市イノベーション学府
じばけんきゅうしつ
地盤研究室のグエン・ダック・チュンで

す。
2017年5月15日、ベトナムの国営テレビのニュースで、日越大学を知りました。それ以来、日本に興味を持ち始

めました。日越大学は、日本とベトナムの友好と結末の象徴として設立されました。今までのベトナムの大学と違い、日本の大学のシステムと同じような勉強ができました。その結果、2017年から2019年まで、日越大学で勉強して修士を取りました。そして、2018年、3ヶ月のインターンシップ旅行に参加するために、初めて日本へ来ました。2019年、日越大学の卒業後、横浜国立大学で文部科学省の奨学金制度の博士課程に選ばれました。

日本に来た時、日本語で話せなかったり、区役所で公務員とコミュニケーションできなかつたりして、不便でした。そして、RKKの萩原さんを知って、たくさん手伝いをしてくれました。新型コロナウイルスが流行る前は、大学で日本語教室に参加しながら、萩原さんと横浜国大の図書館で日本語の会話を練習しました。また、家族が日本に来たので、子どもが保育園に入るために、入学書類を翻訳してくれました。そして、今年長女は小学校に入るので、いっしょに学校へ行き、日本語を通訳し、書類を見て手伝ってくれました。子どもには絵本が贈られてきました。最近では、コロナのため、いっしょに食事をしたりすることは出来ませんが、オンラインで毎週、萩原さんと日本語の勉強を続けています。日本に住み始めた時、RKKのみなさんのような、親切な日本人が手伝いをしてくれて本当に感謝しています。

(原文のまま)

よこはま夢ファンドのご案内

横浜市には、ボランティア団体の支援を目的とした“よこはま夢ファンド”の制度があることをご存知でしょうか。

このファンドを通じてRKKの留学生支援活動を支援して頂けます。

ご協力をお願いします。

税制上の優遇措置など詳細は「よこはま夢ファンド」で検索して当該のホームページをご覧ください。(企画委員会)



留学生からのたより

日本に来て思ったこと

東京藝術大学大学院

スピナル アブドケリム (中国 新疆ウイグル自治区)



私は中国の西側にある新疆ウイグル自治区から、自分で夢を持って日本に来たウイグル人です。横浜に引っ越して二年になりました。この間、いろいろな人と会って、いろいろな

ことを感じました。日本人とウイグル人の似ているところがたくさんあると感じました。

一つ目は、日本人は年上の人にとっても丁寧に話します。例えば、「教えてくださいませんか」「教えてもらえますか」「教えていただけませんか」などたくさんの丁寧な言い方があります。ウイグルでは、街によって違う丁寧語を使います。おじぎの時、日本人は頭をさげておじぎします。ウイグルでは、男の人は右手を左のむねにあて、女の人は両手をむねにあておじぎします。したい女性なら、両頬を近づけます。ウイグル人も年上の人を大切にします。年上の人を絶対に通らないで後ろを通ります。

二つ目は、日本はとても安全な国だと思います。横浜市に住んでいて、近くに行く時は家のカギを閉めません。この話

を先生にしたら、「えーっ、それはダメですよ」と言われてびっくりしました。昔は、日本もウイグルも近くに行く時は、ドアを閉めなくても安全でした。でも今は絶対に閉めた方がよいと思います。

三つ目は、日本人はどんなにストレスがたまってても、頑張る精神があると思います。ウイグル人も、色々な大変なことがあっても頑張っています。私も自分の夢を実現するために頑張っています。私の夢は、自分の映像作品を作ることです。今東京藝術大学で映画の製作装術について学んで、夢に向かって頑張っています。

ウイグルでは「水を飲む時に、井戸を作った人を忘れるな」ということわざがあります。今まで、私は色々な人から助けられました。道に迷った時に知らない人から、学校の先生やアルバイトの先輩たちや、RKKの先生たちまで、みんな優しく、色々なことを教えてくれています。

最後に、美しい心に感謝したいと思います。ありがとうございます！(原文のまま)



真珠の町:ハイデラバードの紹介

慶應義塾大学大学院 ガットウ サイ ダッタ (インド)

町と呼ばれるようになりました。さらに世界的に有名なダイヤモンドのコ・イ・ヌールは元々ハイデラバードの支配者の物でした。

また、Google や Apple などの大企業が進出し、ハイテク産業の町として発展を続けています。

Microsoft の現CEO、ナデラー氏もこの町の出身です。

そうであっても、一番有名なものは食べ物です。トルコのスパイスとインドの料理技術が融合した美味しい料理が沢山あります。特にビリヤニはインドだけでなく世界的にも有名です。

さらに、この町には有名な観光名所が沢山あります。是非ハイデラバードを訪れて下さい。

(原文のまま)



こんにちは。私はガットウ・サイダッタです。現在慶應大学の大学院で機械工学を専攻しています。来日して約3年半が過ぎました。現在、横浜市日吉に住んでいます。

今回は私の故郷であるインドのハイデラバード市について紹介します。

ハイデラバードは南インドのテランガーナ州の州都です。インドで五番目に大きい都市で、その面積と人口は東京都と概ね同じです。ここは比較的温暖なので、大統領の冬の住居もあります。

人口の約30%がイスラム教徒です。約四百年前トルコの支配で多くのトルコ人及びアラブ人教徒が移住して来ました。その結果ダイヤモンドと真珠の

グループ活動

文化・ファミリー交流グループ

留学生との交流は当面オンラインで

徳屋英生

1 年余にわたるコロナ禍の影響により、当グループの活動は大きく制約を受けておりコロナ収束の見通しも立たず、活動再開の目途も立たない今日この頃である。

この機会に当グループの活動の歴史、理念を振り返り、活動再開の日に備えたく思います。2008 年に横浜国大より IMP (Infrastructure Management Program) 留学生との交流をしてはいかがとの紹介を受けました。同プログラムの留学生は主にアジア、アフリカ等の発展途上国から派遣された土木工学系の学生で日本語の習得を主目標とはしておらず、日本人との交流を通して文化、伝統、風俗を学びたいというものであった。

RKK の主目的の一つである日本語の学習以外の要望に応えるべくファミリー交流グループを発足させ家族ぐるみの交流を開始した。その活動は家庭訪問、食事会、旅行、観劇、音楽会、美術鑑賞会、伝統行事参加等多岐にわたっている。春のお花見、夏の七夕祭りが RKK 全体の行事となっている。

又日本文化の紹介、体験を目的として 2013 年より文化祭を開催し伝統文化に触れ合う機会を設けることとした。活動領域の拡大に伴い従来のファミリー交流より文化ファミリー交流と呼称の変更も行った、文化祭の発表展示内容は、写真、絵画、書道、川柳、生花、趣味の工芸品と多岐にわたっている。体験活動としては茶道、囲碁、将棋、書道、絵画、似顔絵、男女児伝統遊戯、折り紙、風呂敷包と数多く、重層的、多面的に日本の伝統文化に触れることができる。

従来、IMP 留学生は 1 年平均 10 人弱来日していたがコロナ禍によりその数は減少し、又入国困難となって数人に留まっている。

文化ファミリー交流活動は基本的に対面交流でありオンラインでの交流では成果が望みにくい、従い一日も早いコロナ終息を願い、当面はオンライン等で留学生との対話を通じ関係を維持していくことが必要である。

〔RKKのお花見〕



グループ活動

ちゅうごくごがくしゅうこうざ しんにんこうし RKK中国語学習講座の新任講師として

中国語学習グループ



みな ことし がつ あたら
皆さん！こんにちは、今年2月から新
しく中国語講師を担当させて頂いた支
彤(zhi tongtong)と申します。中国の山
西省から参りました。山西省は刀削麺が
有名で、名所旧跡がいっぱい残り、歴史
の重みを感じられるところです。今は横

濱国立大学国際社会科学府に在籍していて、4月からは
修士2年生になります。

わたし いぜん おも
私は以前からずっと中国語講師になりたいと思っていま
した。それは一方通行ではなく、お互いの勉強になるから
です。中国語を教えることを通じて、私は日本語を鍛えるこ

よこはまこくりつだいがくだいがくいん し どうとう
横浜国立大学大学院 支 彤彤(中国)

とができる一方で、皆さんとの交流もできることは、貴重な
機会だと思っております。また、COVID-19 calamity
からずっとオンライン授業なので、家に閉じこもるばかり
で、人との接触は少なくなっていました。土曜日の授業で
は、皆さんが中国語を勉強している元気な姿をみて、私も
頑張らないといけないと思うようになりました。そして、授業
の雰囲気も好きで、楽しかったです。

みじか ほかな じんせい ふ しぎ えんであ い つな
短く儚い人生で、人と人の不思議な縁出合いの繋がりが
です。これからは皆さんとの縁を大事にして、毎回の授業
を十分に準備して皆さんの上達に少しでも役立つように
頑張っていきたいです！よろしくお願いします。

(原文のまま)

トピックス

「日中友好の輪」でRKK紹介

この程、神奈川県日本中国友好協会(以下、日中友好協会)の広報誌「日中友好の輪」へ要請に応じてRKKの活動について寄稿しました。そこでは、RKKの活動の現状や特徴、コロナ禍における留学生支援・交流への対応等を紹介し、PRに務めました。

私共と以前から交流のある中国留学生団体「横浜地区中国留学生学友会」の新入生歓迎会、交流会等を通じて、日中友好協会とも交流をもっています。因みに、上記学友会の会長はRKKの留学生登録会員でもあります。そのような経緯で昨年初めには同協会主催の「交歓のつどい」にも参

加し挨拶の機会を得て、神奈川県や横浜市の関連部局、横浜華僑団体、日中友好団体など多数の参加者にRKKの活動を紹介しました。またインタビューも受けました。そのような前例もあり上記の寄稿に及びました。

ご承知のようにRKKには中国留学生の登録は多く、かつ中国語学習活動にも取り組んでおります。様々な機会を通じて日中友好協会にRKKの留学生支援活動等への協力を要請しているところです。



(深水)

賛助会員のみなさまへ：ご支援ありがとうございます。

周 亜萍、小久保佐恵子、杉田あずさ、佐々木紀長、山田実 (敬称略)

新入正会員のみなさまへ：よろしくお願いします！

石塚敏明(藤沢市)、高崎直子(旭区) 服部牧子(神奈川区)(敬称略)



私の日本語個人支援

日常会話のトレーニングを重視

南地区 畑 泰之

これ迄4人の留学生を支援して来まして、現在は2人の留学生の支援をしている。

支援形式は、各自、週1回の頻度で約2時間の面談形式によるティーチングを行っている。

尚、会場としては、私の事務所が入っているビジネスセンターのラウンジを使用している。

留学生の支援方法は、色々な方法があるが、一般的には、日本語の会話テキストを使用する方法であると認識されている。

然し、この方法では、極く基本的で形式的な会話の練習は可能ですが、問題は、実際の社会生活に於いては、会話が行われる時点での環境や状況或いは雰囲気に対応的に適合した生きた日本語の会話が必要であり、その為には、この形式的な日本語学習では、それへの対応は難しいと考える。

その為、当方では、テキストの使用を主とせず、その時々日本或いは海外でのニュース等をテーマに取り上げて、雑談形式でフリーにディスカッションするという方法を主に採用している。

これを通じて留学生に出来るだけ喋らせ、その間の会話

の内容やアクセント、文法的問題などで気が付いた時に、状況に応じた正しい日本語の使い方や発音方法を指摘するという方法を取っている。

その間、留学生に適宜文章を書かせ、不適切な表現や漢字の使い方があれば、その都度、適正な日本語や正しい漢字の使い方等を指導している。

又、時には、技術系の学生には、市内の技術博物館やテクニカルショー等の技術展示会会場に向いて最近の先端技術或いは過去の日本独特の技術等に触れてもらい、文科系(法律系)の学生には、裁判所やハローワークの見学や開港記念、歴史博物館や三溪園、能楽堂等を見学させて日本の文化や歴史を理解してもらっている。

只、最近では、留学生側でアルバイトの時間が多くなり、予定した面談スケジュールのキャンセルが多発している点が少々気になる。

アルバイトも大事ですが、日常会話のトレーニングが疎かになるのは留学生にマイナスとなる事は明らかです。大学側、政府・地方公共団体での留学生に対する生活援助システムの拡充政策が望まれる。



理解して使えるようになること

東地区 藤樫大二郎

留学生のがんばりを支援したいという動機で RKK に入会しました。はじめは留学生と直接会って原稿の問題点を説明しながら、彼が理解して納得の上で修正する形を繰り返していました。コロナ拡大後は残念ながらメールのやり取りだけになりました。メールで文章のミスを指摘するだけなら簡単ですが、それでは支援にならないと思いました。助詞の使い方ひとつ取っても他の用例や状況を扱いながら、彼が理解して使えるようになることが私にとって支援の在り方です。オンラインは双方向のメリットがありますが、納得のいくコミュニケーションが難しく、工夫が求められる点でな

かなか大変です。大学のオンライン授業でも一方配信型が多いのではないのでしょうか。

それにしても、留学生が文献や資料を読み、思考を発信できる力は相当なものです。しかし、仮に N1 取得者でも会話ならばその場の状況や想像力が大きな手助けとなるのですが、「書く」場合には実力が試されるようです。私自身も中国語習得の道を歩みながら、彼らのレポートから日本語の「クセ」の傾向に注目し、母語干渉の影響について整理し始めました。今後も、日本語支援のより効率的なあり方を模索していきたいと思えます。



中央地区

交流会を Online で開催

村田威雄



初めて Online で地区交流会を行いました。出来るだけ多くの方に参加して頂くために、Zoom お試し会議を3/12

に行き、Zoom の操作法を練習しました。3/16の本番では7人が参加し、畔取さんの司会で留学生の支援状況について最新の情報を話し合いました。留学生の支援活動では

Online 利用が増えています、自宅に留学生を呼んで支援活動している方もいらっしゃいました。ミャンマーに帰国した元留学生が厳しい状況に置かれているものの、ボランティアとして何ら手を打つことができないという辛い話もありました。

次回は更に多くの参加者を得て、コロナ禍での支援方法について意見交換ができればよいと思います。



湘南地区

リンリンとの思い出

小嶋玲子

2017年11月8日 県民センターで布津先生の紹介で出会ったのが中国からの留学生、齊晏蔚さんです。彼女の希望でリンリンと呼ぶことになりました。大学院の入試に合格し、2019年4月2日横浜文化体育館で行われた入学式に参列しました。同期のウイグル族留学生3人とともに輝くような若さと美しさと希望に溢れた春の1日でした。弘明寺の商店街で買物をして留学生会館のキッチンで中国料理を作ってくれたり、鎌倉に行ってアニメの舞台になった場所で写真を撮ったり中華街で30品近い料理を平らげたり楽しい思い出が沢山出来ました。リンリンは RKK のスピーチコンテストに出場したあと、中国語講座の講師を2年近く立派につとめました。

就活にも前向きに取り組み、日本、中国の両国で内定をいくつかとりましたが多国籍企業の北京支社での就職を決め、4月に帰国する事になりました。コロナ禍が続くなか、卒業式もなく、このまま顔を見ることもなく別れるのは残念で自宅によんで振袖を着せて写真を撮ることを決行しました。後日餃子を皮から作り美味しく食べるという楽しい体験もできました。いつか又北京で会いましょう。

リンリン元気でね。再见



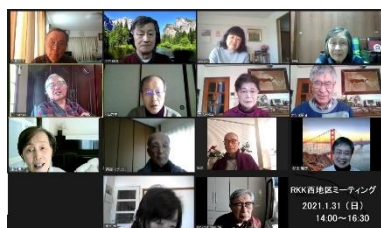
齊晏蔚さん



西地区

この1年を振り返って

前田六生



西地区会員(22人)の多くは、委員会やグループのスタッフとして RKK の活動を支える活動を継続中です。

明学大「戸塚まつり」、横国大「観月の会」、「とつかお結び広場」が中止となる中、地区交流会は4月のみ中止、7月と10月は「フレンズ戸塚」で開きました。

去る1月の4回目は、初めての試みとしてオンラインで実施しました。下村さんをホストにして帰省先から参加の徳屋さんを含め14人が久しぶりにお互いの息災を確認できたことは何よりでした。絵画や川柳など趣味にも話が及び、コロナ禍の不自由な日常生活を工夫して送っておられる様子がうかがわれました。最後は、次回4月24日(日)での再会を期し、大久保さんのリードとウクレレ伴奏で「今日の日はさようなら」を歌い散会となりました。



地区からのたより

北地区

はじめて Zoom 会議に挑戦！

松井直子

第2回北地区の交流会は2021年3月27日(土)参加者12人で行われました。

昨年の10月の第1回交流会でZoomの講習会を行い、今回はそれを実践する形になりました。事前に提出された会員の報告を島田さんがパワーポイントを使ったプレゼンテーションにしてくださり、ホスト役も引き受けてくださいました。

1部 会員相互の交流

- ・山口さん・・・お仕事で「たんかん」を栽培している屋久島の農家を訪れた時の様子と島の独特の風景を紹介されました。
- ・沖さん・・・中学時代から興味を持たれたバードカービングの歴史と魅力を紹介されました。仕上げに目を入れた時の感動が心を打ちました。
- ・萩原さん・・・退職されてから始めた趣味の絵画「西洋あさがお」の作品1点とそれを反転して描いた作品1点を紹介されました。作品作成の工夫が伝わりました。
- ・松井・・・自粛期間中に英文で書いた日記を通して人々との交流で得た事、日記にアップした地域の写真も紹介しました。

2部 これからのRKKの活動について

・岩永さん・・・日本語支援で留学生との接点を持たない会員、新入会員への対応。

・来期の活動の方針の見通しと来日外国人の支援団体の対策を知りたい。

討論(主な内容)

・中国中心の活動は今後維持できないのでは？ベトナム、ミャンマーの生徒が増えている

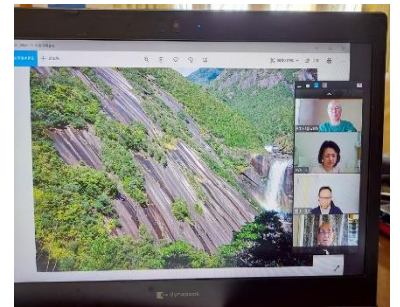
・講師を頼むという形ではなく会員がOnlineで日本語指導ができれば効率的である。

・魅力ある活動を計画し、留学生をひきつけることが大切である。等々

パワーポイントのビジュアル画像を使っての交流会でOnlineの良さを実感しました。

* 梶本さんの担当されていたミャンマーの元留学生から「今、親にも会いにくい毎日が続いています。

今後も皆さまのご支援をお願いします。」との連絡があったとの事でした。



留学生の皆さんへ / For International Students

Let's join one-to-one Japanese language teaching program by volunteers.

- ・日常会話(Daily Conversation) ・ビジネス会話(Business Conversation)
- ・卒論、レポートの文書指導 (Writing Japanese Thesis & Report)
- ・新聞／書籍等の読解 (Reading Newspaper & Books)
- ・日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test)
- ・就職活動 (Job Hunting ・ Entry sheets/Interviews)



Enjoy visiting plants/laboratories and participating in various cultural exchanges.

Contact : 津田 (Tsuda) e-mail: sakura_tudakei@ybb.ne.jp

Home Page : <http://rkk.world.coocan.jp/>

〔春の花景色〕



この春もお花見会がコロナ感染の蔓延で休止せざるを得ませんでした。
そこで、これまでのお花見や満開の桜を写真で楽しんで頂ければと思います。
お花見会ができるようになれば、ご参加お待ちしております。



〔生け花と絵画と〕

大久保都代美

美の創作に魅せられて



白の山茶花と蜜柑や柿の実で生け花にしたものを、ネパールのタペストリーを背景にあしらって油絵制作。
現在ステレオ鎌倉フレンチレストランに展示中



晩秋の庭に残った最後の薔薇1輪と紫の野菊を籠にアレンジ



庭の白とピンクのバラを飾りウクレレを伴奏にして“バラが咲いた”の歌を吹き込みコロナで籠っていた留学生や友人にビデオ配信。喜ばれた



白の山茶花と蜜柑と柿の実、黄色いつわぶきの花で実りの秋を表出。
左の絵はこの生け花を絵画表現したものである



枯紫陽花、ピラカンサス、山茶花で秋の情景表現

会員の趣味活動

ずぼら趣味

コロナ禍、昨年初から高齢者の外出が制限されたこの時期、夫婦でステイホームを決め込んだ。だからと日を過ごしてしまい今に至っている。

10年続いている川柳と6年目の似顔絵だけは月一の教室だけ何とか出席した。有り余る暇な時間は何ら趣味に活かせなかった。ワクチン接種が順調に進み普通の年寄りの生活に戻ればと期待している。

西岡誉富



コロナ禍後
並みの
消費税

八十過ぎて
川柳似顔絵
まだ続き

川柳



愛でる

山口孝一



カイドウが咲く寺
鎌倉 光則寺



対岸の河津桜
静岡県賀茂郡河津町

河津桜は開花期間が長いので撮影が比較的容易ですが、ソメイヨシノは開花が短期間なので苦労します。ソメイヨシノを狙って鎌倉へ行ったら時期尚早。ふと思いついて光則寺まで足を伸ばしたらラッキーなことにカイドウが最高の見ごろを迎えていました。

バードカービングの紹介

沖 勲



写真1(カナダガンのデコイ 購入品)

バードカービングはアメリカでジャズと並んで発生した芸術で、ルーツはがんやカモを捕獲するため、写真1のようにオトリとして作成した「デコイ」から始まっています。日本には50年程前に伝わり、10年前に旭区・白根地区センターの文化祭でそのサークルを知り、始めました。先生はアメリカのウォード・バード・カービング世界大会で何度も上位に入賞された方です。



写真2(木片→削り→彩色)

写真2のように帯鋸で切られた木片から小刀、彫刻刀で削り、最後に紙やすりで仕上げます。木片の材料は柔らかくて削りやすいジェルトン(東南アジア)、チュペロ(アメリカ)などを使用します。仮に削り過ぎても粘土の補修材があります。



写真3(スズメ)

木彫り後、絵の具の浸透防止のためラッカーを塗り、その上に白いジェツソを薄く塗り、彩色はアクリル絵の具を使用します。絵の具は乾けば上塗りが出来るので、失敗しても塗り直しが出来ます。また思うような彩色が出来なければ先程のジェツソを塗ってしまえば、やり直しが可能です。最初の作品はスズメで、写真3の通りです。



写真4(羽の描き方)

バードカービングで最初に難しいと思うのは羽の描き方で、筆の先端で外から羽の中心(羽軸)に向かって細い線で描き、薄い絵の具を5, 6回塗り重ねると平面なのに羽が重なって写真4のように立体的に見えるようになります。更に上の羽の影を下側に付けることで浮き上がってきます。

次に難しいのは足の製作で銅線をハンダで接続し、接着剤の入った粘土を巻き付けて形作ります。小鳥などは指が入らず、苦勞します。



写真5(魚を狙うカワセミ)



写真6(梅の木から地上の虫を探すジョウビタキ)



写真7(コゲラの巣と親子)

鳥の寸法、形状、色などは図鑑で調べ、詳細はインターネットに鳥の名前を入力すれば、画像が沢山載っているので、それを参考にします。

鳥の羽を更にリアルに羽の質感を出すため、道具として電動グラインダーやバーニングペンがありますが、なくても小刀、彫刻刀、紙やすり、はんだごて、筆、アクリル絵の具があれば、バードカービングを十分に楽しむことができます。特に木彫り時、少しずつ鳥の形が見えてきて、紙やすりで磨く時、ガラスの目を入れた時や、羽の重なりが見えてきて、木片がかわいい鳥になると非常に楽しくなります。

会員の趣味活動

茶道を楽しむ

もう一輪の花

岩科 咲子

机を並べた上に緋毛氈代わりの模造紙を広げ、真ん中に黒塗りの丸盆を据えた上には、抹茶を盛った「なつめ」、「抹茶茶碗」、朱色の「ふくさ」を定位置に乗せると、例年「RKK文化祭」の一角を担う簡素な茶席の出来上がりです。2～3本を竹筒に活けた野の花も欠かせません。

一昨年の文化祭ではここにもう一輪鮮やかな花が加わりました。中国からの女子留学生、支彤彤さんです。母国の大学で日本語を学んだ彼女は日本文化の一つとして茶道も習った由。良い機会だからと点前する側に加わっていただきました。

会員のMさんが若い頃の着物を着付けしてあげ、華やかさの中にも楚々とした立たずまいを見せた支さんはそこに活けられたもう一輪の花のようでした。

茶を供するまでの複雑な所作は2～3年で覚えられるものではありません。手ほどきする私たちの手元に真剣な眼差しを注ぎながら何とか「ふくさ」をさばき終えた支さんが、茶をすくい入れ湯を注いだ茶碗に向かって、いかにも楽しそうに茶筴を振っていた姿が私の眼の奥に残り、忘れられない文化祭の一コマとなりました。



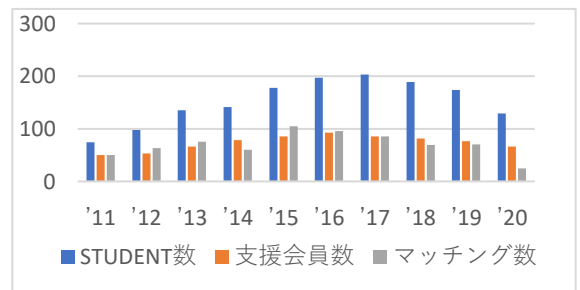
RKK フェスティバル

マッチング情報

- ・2011年度から、2020年度までの日本語支援状況の推移を図示しました。
- ・人数等は、すべて延べで数えた数です

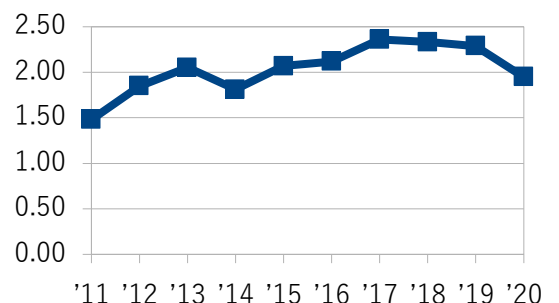
STUDENT 数・支援会員数・マッチング数の推移

年度	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20
STUDENT数	74	98	135	141	178	197	203	189	174	129
支援会員数	50	53	66	78	86	93	86	81	76	66
マッチング数	50	63	75	60	105	96	86	69	70	25



平均支援人数の推移

年度	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20
平均支援人数	1.48	1.85	2.05	1.81	2.07	2.12	2.36	2.33	2.29	1.95



コロナ禍に於ける留学生の就活について

キャリア支援委員会 畑 泰之

1. 現状の問題点

一昨年来のコロナ禍に伴う緊急事態宣言の発出により、全国的に人の流れの停止や経済不況の影響で多くの企業倒産や従業員の解雇や他社への人材派遣措置並びに新規採用人数の削減や内定取り消し等が頻発しており深刻な不況状態に陥っている。

これに伴い、多くの企業で、新規採用人員の削減や企業説明会や個人面接等がテレワーク形式に変更されてきている。

この状況下で、大学生の就職活動はこれまでの対応とは異なる対応を必然的に取らざるを得なくなっており、特に、留学生にとっての就活は正に危機的状況となっていると思われる。

係るオンライン形式の会社説明会では、就活者が就職希望先の企業の実情を確実に理解する事は困難であり、ましてや、個別面接に於いては、面接官の個人的趣味から、被面接者の外観的印象のみに基づく恣意的な判断が支配的となる傾向が強く、正当な人物評価が行われない可能性が極めて高い。

この様な会社説明会や面接形式では、特に留学生に取っては、語学力、表現力、理解力の点で日本人学生との比較に於いて、その差が少なからず存在し、面接時等で、その影響がかなり強く反映される事から、採用決定に日本人学生よりもかなり不利となる可能性が高い。

2. 海外留学生に求められる事

その為に、今後就活される留学生は、今以上に日本語に対する語学力を向上させる努力が求められ、特に面接時の瞬間的な受け答えに於いて、生きた日本語が話せる実力を持つ事が必要となる。

そこで、就活する留学生には、語学学校への参加や日本人学生や RKK 会員を含む日本人との直接的対話の機会を積極的に作る事を願いたいと思いますが、現状は、留学生もコロナ禍で、直接の人的触合いを敢えて避ける様な気風が多く見られる。

一方で、Zoom 等のツールを利用して、双方間の対話を図る傾向が多く見られる。

確かにインターネットを介した対話方法は、移動もせず3密も回避できるという点では良い手段ではあるが、係る方法は、人間同士が直接的に対面して得られる貴重な感覚的、情感的な会話の綾や、生きた日本語の使い方等の情報は全く得られない形式的な手段に過ぎない。

従って、留学生各位にはコロナ禍を過剰に恐れる事なく、マスク着用を前提として、以前の様な直接的な対話方式の学

習にチャレンジして欲しいし、又、RKK 会員各位もこの直接的な対話方式への積極的回帰を図る事が望ましい。

一方、就職希望企業に関しては、この様な経済不況環境に於いては、大手企業のみをターゲットにせず、地方を含めた中小企業にも対象を広げる事が望ましく、特に IT や AI 関連技術を主体とするビジネスを展開している中小企業の多くは将来性が高いと評価されており、又地方に於けるそれらの中小企業の中では、農業や観光資源に関連したビジネスで活躍しているところが多いと聞いている。

3. 国や地方公共団体に対する要望

前記した不況下に於いては、アルバイトの数も激減しており、留学生は、夜間を含む不利な条件でのアルバイトを行う事が多く、それにより留学生が生きた日本語を習得する為の機会が減少している。

この対策として、政府機関等が、留学生に対する経済的援助をより一層強化し、奨学金の増額或いは奨学金受給範囲の拡大、更には別途給付金等の供与等の政策を強化し、留学生が、無理してアルバイトをしなくても勉強できる環境を整備する事が望ましい。

4. 大学への要望

一方、現段階では、大学側が完全にキャンパスを閉鎖している為、学生が、図書館等の必要な施設が利用出来ず、且つ殆どの授業がオンラインで開講されている為、殆どの学生は教授との個人的コミュニケーション或いは学生同士間での人的コミュニケーションが全く取れず、マンツーマンでの人間性のある教育指導や自助学習が全く実行されていない事実を鑑みると、大学教育の持つ一番大切な教育理念が全く喪失してしまっている事は大問題である。

つまり、大学の主な機能は、言うまでもなく、社会に出る学生の人間力を向上させ社会で通用する人間を育成する事が重要な機能であるが、現状に於ける大学内での上記対応は、この基本的機能及びその精神に反する。

一方、最近判明した事実によれば、所謂3密回避を徹底し、飲酒を含む多人数での会食の禁止を行えば、コロナ感染者の発生・拡散を防止出来る事が明らかになっているので、大学側として、コロナ禍を極端に恐れるのではなく、学生間に上記したマスク着用と、3密回避の徹底及び会食形式の制限とを徹底させることを条件として、早急に且つ積極的に学内を開放し、授業の多くを対面形式に戻すことが望ましいと思われる。

おもな活動(2021/2 から 2021/4 まで)

スタッフミーティング

◇3/21 開催予定の 2020 年度第 4 回スタッフミーティングは、コロナ禍の緊急事態宣言による外出自粛のために、サポートセンターでの会議は取りやめ、各スタッフからの詳細な連絡メモを連絡メモ集として編集し、メールで配信し、情報を共有した。

活動グループ

- ◇日本語支援 G : 日本語の教え方ブラッシュアップ講習会は、昨年に続き中止。
オンラインによる日本語支援を推進。
- ◇文化・ファミリー交流 G : 今年もお花見大会は中止。
毎月「交流だより」を発信し情報を交換。
- ◇中国語学習 G : 週 1 回の ZOOM オンライン授業を継続。留学生の中国語講師は支さんが引き継ぐ。
- ◇社会・工場見学 G : コロナ禍のため、見学イベントは休止。

地区交流会

- ◇東地区 : 3/14 に 9 人の参加のもと Zoom オンライン交流会を実施。
- ◇西地区 : 1/31 に初めてオンラインで交流会を実施。14 人が参加。
- ◇南地区 : 恒例の新年の交流会・親睦会は取りやめメールなどで連絡を取り合う。
- ◇北地区 : 3/27 にパワーポイントを活用したオンライン会議を開催。12 人が参加。
- ◇中央地区 : 3/16 に 5 人の参加のもと初めてのオンライン交流会を実施。
- ◇湘南地区 : 3/16 に初めてのオンライン交流会を開く。8 人が参加。

委員会

- ◇会員委員会 : 年会費の納入推進、会員名簿の更新、マッチングの実施。
- ◇広報委員会 : RKK ニュース 83 号の編集。PDF の配信を主体とする。HP の更新。
- ◇キャリア支援委員会 : RKK ニュースへの記事掲載。
- ◇企画委員会 : 会議室予約システム対応。
- ◇会計委員会 : 年会費納入管理、収支決算作成。
- ◇事務室 : スタッフミーティング連絡メモ集作成。事業計画策定推進。議案書編集。

ほうじん りゅうがくせい かた あ かい
NPO法人 留学生と語り合う会

れ ん ら く きき はぎわら あつし
連 絡 先 : 〒245 - 0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦

E メール : rkk1025office@yahoo.co.jp Tel & Fax 045-813-8327

ホームページ : <http://rkk.world.coocan.jp/>

Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers

RKK ニュース編集 : RKK 広報委員会 春号担当 杉田慶子 April 27, 2021

無断転載をお断りします

